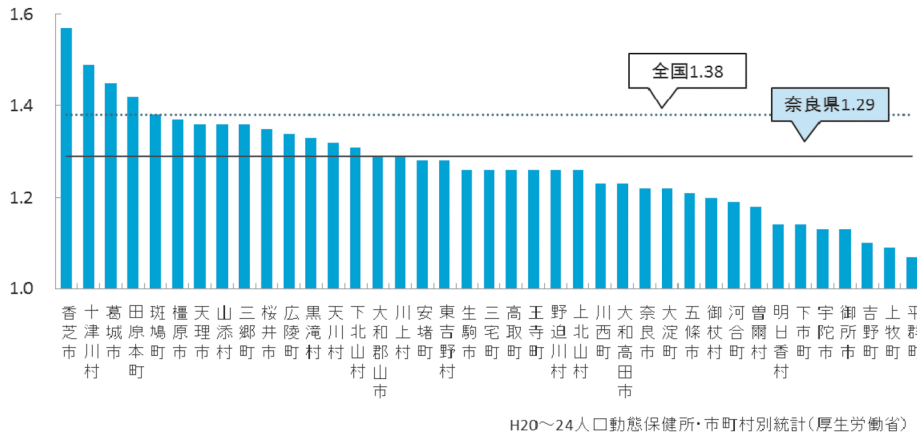


<コラム③> 市町村別合計特殊出生率の状況

県内市町村の平成20年から平成24年までの5年間の合計特殊出生率の平均は、香芝市、十津川村、葛城市の順に高く、低い順では平群町、上牧町、吉野町となっています。

■市町村別合計特殊出生率

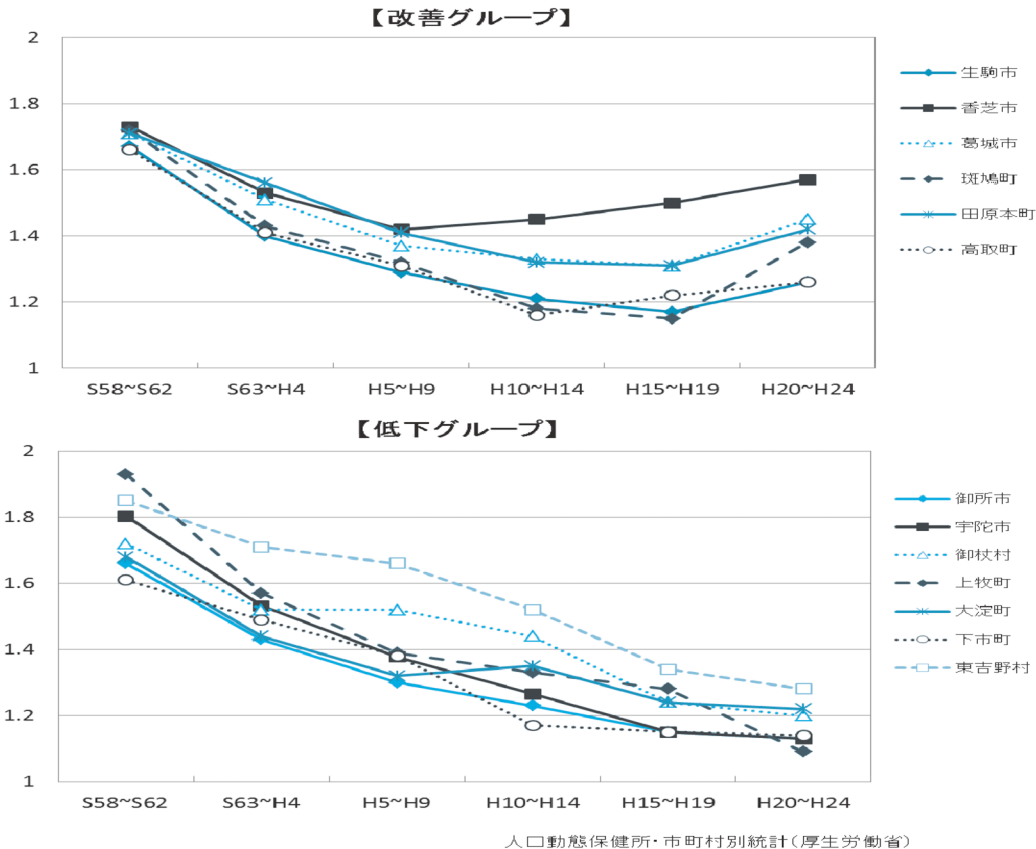


上位5位	
香芝市	1.57
十津川村	1.49
葛城市	1.45
田原本町	1.42
斑鳩町	1.38
下位5位	
平群町	1.07
上牧町	1.09
吉野町	1.10
御所市	1.13
宇陀市	1.13

H20～24人口動態保健所・市町村別統計(厚生労働省)

■合計特殊出生率の推移

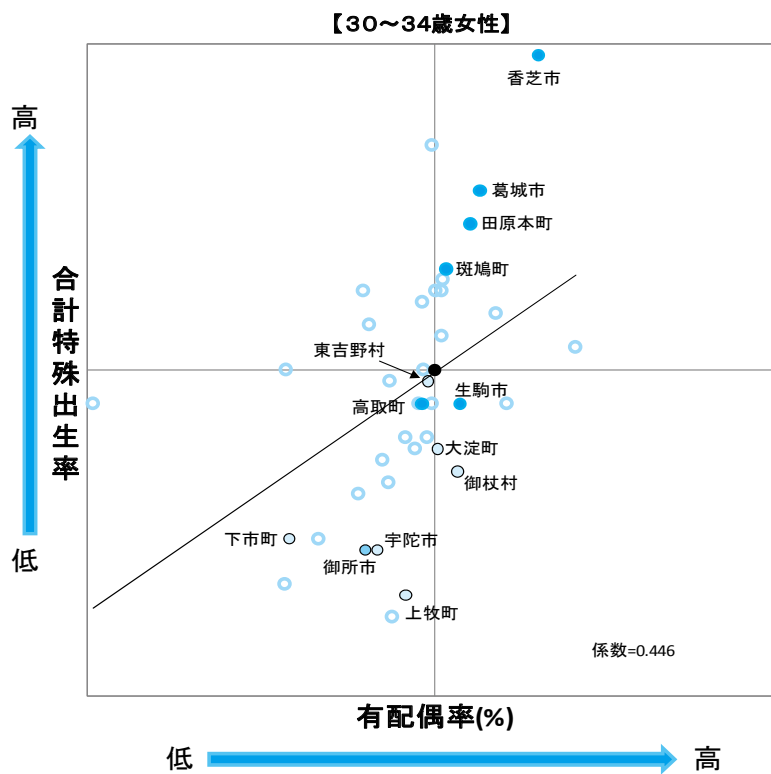
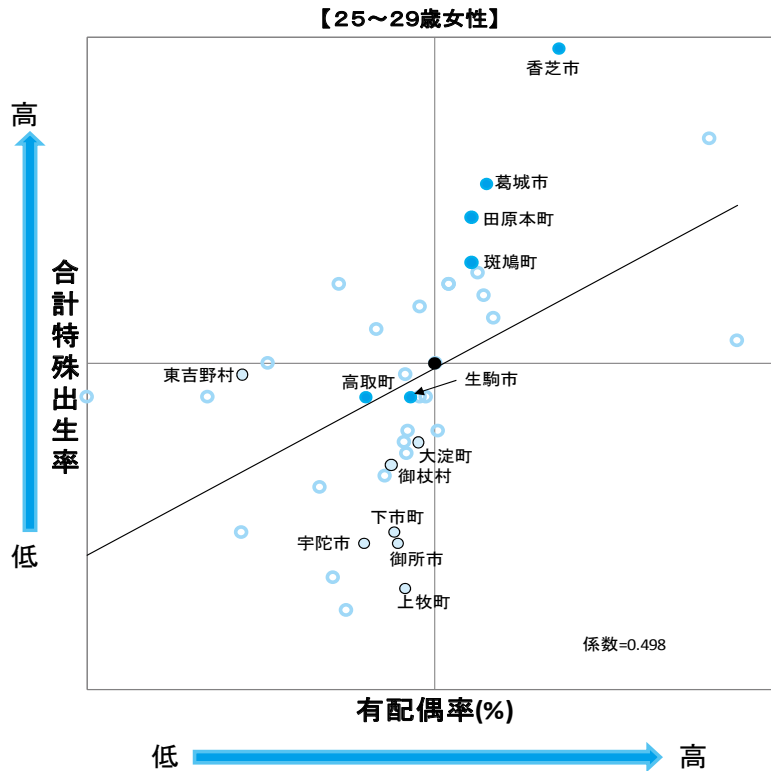
昭和58年から平成24年までの各市町村の合計特殊出生率(5年間の平均値)の推移をみると、約10年前(平成14年)まではほとんどの市町村で低下傾向でした。その後、数値が改善した市町村があったため、改善した市町村と低下し続けた市町村を抽出し、少子化の要因を、女性の有配偶率から分析しました。



人口動態保健所・市町村別統計(厚生労働省)

下図のように、女性の有配偶率と合計特殊出生率の間には相関がみられ、さらに、30歳から34歳よりも、25歳から29歳の女性の有配偶率の方が合計特殊出生率との相関がより強くなっています。

■女性の有配偶率と合計特殊出生率との相関



H22国勢調査(総務省)H20～24人口動態保健所・市町村統計(厚生労働省)

4 「平成 25 年度奈良県子育て実態調査」結果（抜粋）

平成 25 年9月から 11 月にかけて、県内在住で妻が 50 歳未満の夫婦及び 18 歳以上 50 歳未満の独身者を対象に、県民の結婚や子育てに関する意識や現状を調査しました。

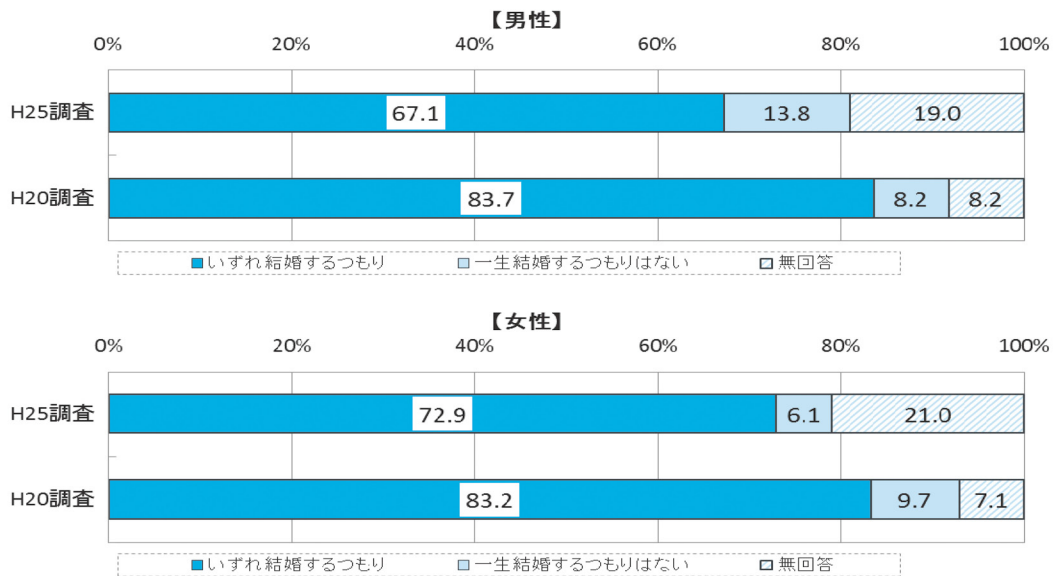
主な項目について、平成 20 年度に実施した奈良県少子化実態調査との比較を行いました。

(1) 未婚者の生涯の結婚意思

独身者の結婚意欲が低下(男性△16. 6ポイント・女性△10. 3ポイント)

「いずれ結婚するつもり」と考える割合 独身男性【H20】83. 7% → 【H25】67. 1%

独身女性【H20】83. 2% → 【H25】72. 9%

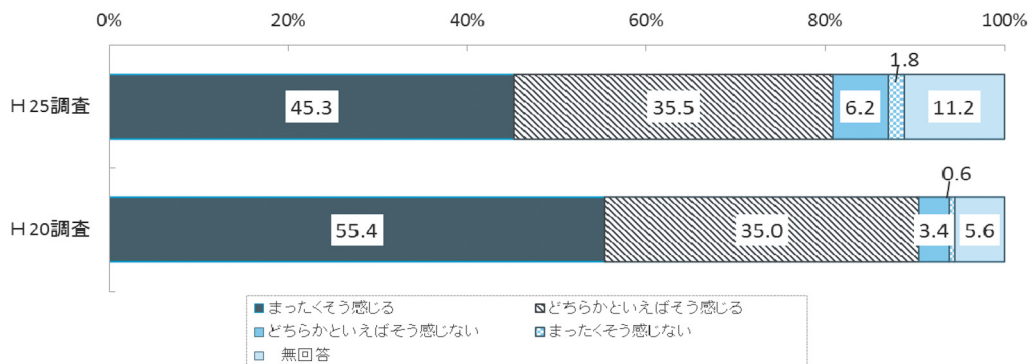


※20～39歳の結婚経験のない未婚者
H25奈良県子育て実態調査(子育て支援課)
H20奈良県少子化実態調査(少子化対策室)

(2) 妊娠中や出産時の相談相手の希望

妊娠中や出産時に相談相手がほしいと希望する割合が減少(△10. 1ポイント)

強く感じる(まったくそう感じる)割合【H20】55. 4% → 【H25】45. 3%



※今後出産を予定・希望している妻
H25奈良県子育て実態調査(子育て支援課)
H20奈良県少子化実態調査(少子化対策室)

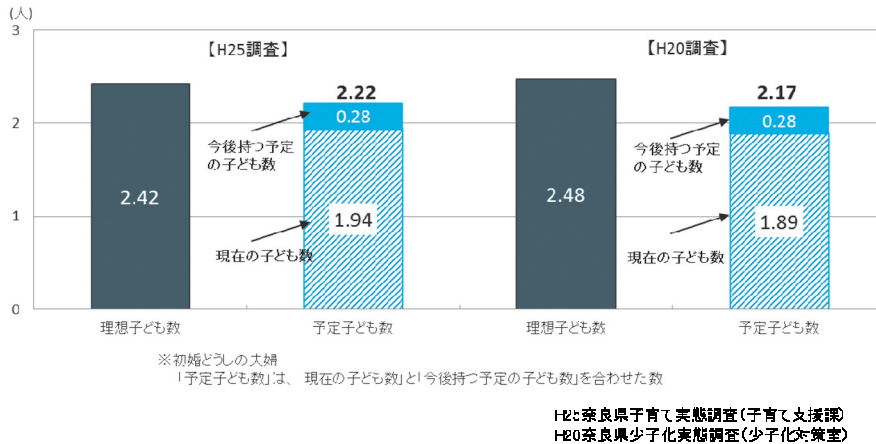
(3) 夫婦の理想子ども数と予定子ども数(平均)

夫婦の理想子ども数が減少(△0.06人)し、予定子ども数が増加(+0.05人)

理想子ども数(平均)【H20】2.48人 → 【H25】2.42人

予定子ども数(平均)【H20】2.17人 → 【H25】2.22人

※予定子ども数…現在の子ども数と今後持つ予定の子ども数を合わせた数



(4) 子育てに対する不安・負担感

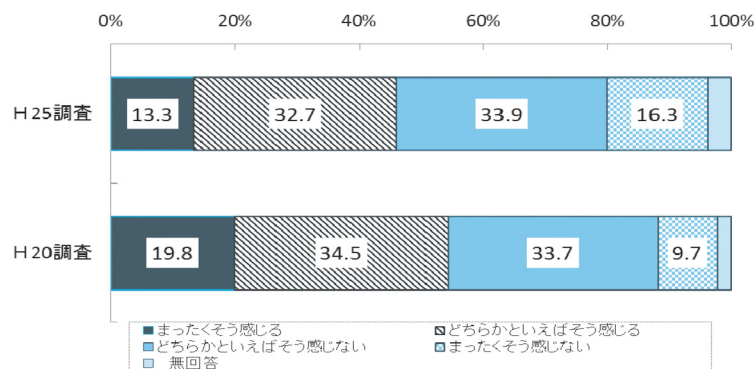
妻の子育ての心理的・精神的な不安・負担感が減少(△6.5ポイント)

強く感じる(まったくそう感じる)割合【H20】19.8% → 【H25】13.3%

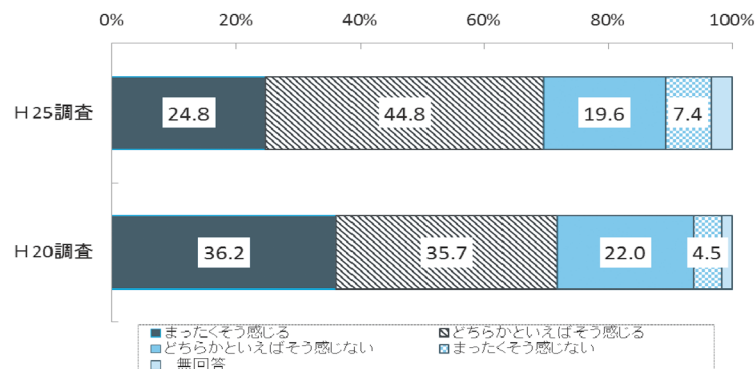
妻の子育ての金銭的・経済的な不安・負担感が減少(△11.4ポイント)

強く感じる(まったくそう感じる)割合【H20】36.2% → 【H25】24.8%

<心理的・精神的な不安・負担感>



<金銭的・経済的な不安・負担感>



※0歳未満の子どもがいる夫婦のみ
H25奈良県子育て実態調査(子育て支援課)
H20奈良県少子化実態調査(少子化対策室)